カンボジア幼児教育・初等教育段階での
日本の美術教育支援の実績と成果に関する調査

鈴木光男
聖隷クリストファー大学

1. 研究目的

カンボジア次期教育課程で導入される美術教育の問題を、これまで日本の NPO がどのように支援し、それにより幼児教育･初等教育現場の実態はどのように変化してきたのか、今後どのような展開が望まれるのかを解明するものである。そのために、美術教育・保育の学習経験の有無から幼児･児童の描画にどのような違いが見られるかを調査し､それらと日本の現状を比較し、カンボジアの美術教育・保育支援に資する知見や問題点を明瞭にしようとするものである。

2. 研究概要

1)日程:2018 年 2 月 13 日～16 日

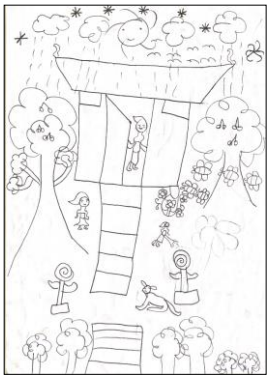
2)訪問校:スヴァイリエン州 5 校①Hun Sen Chres 小学校、②Chantrea 小学校、③Mesor Thngok 小学校、④Bavit 小学校、⑤Bunrany Hunsen Chipou 小学校
プノンペン市 3 校⑥Klab 1 小学校、⑦Chav Pnea Hok 小学校、⑧Phnom Donpenh 小学校

これら 8 校は 2016 年度にも聞き取り調査ため訪問している。スヴァイリエン州 5 校は JHP により絵画指導を続けてきた学校である。プノンペン市内の⑥Klab 1 小学校は JHP によりマーチングバンドの支援を受けており､関係は深い｡⑦⑧は JHP との関係はないが、カンボジア教育省担当官の推薦校である。今回⑦⑧両校共に訪問予定だったが、中華正月のため⑧は休校。⑦も児童は殆ど居ない状況であった。両校共に教育省から「中華正月による休校・欠席はない」とのことであったが、実際は予定していた調査ができなかった。

3)調査方法:統合 HTP 法による描画調査。1 学年 5 人ずつの児童を対象に、30 分間で A4 用紙に家と木と人、その他思いついたものを描いてもらい、分析･整理する。

4)分析方法:1 枚ごとに統合性や描画サイズ、付加物、遠近感、現実的・非現実的描写などの視点により分析・整理し、それぞれの学校･学年でどのような傾向かを比較･検討する。

3. 調査結果



右の写真のような 230 枚程度の描画データを収集することができた。現在、分析中である。2016 年度本学共同研究費で訪問・聞き取り調査[1]したときとは､スヴァイリエン州 5 校もプノンペン市 3 校も状況が違い非常に戸惑うこととなった。それも今回の調査結果とは言えるが、絵画指導を JHP の支援により継続しているものと考えていたスヴァイリエン州 5 校は、どの学校も「今年は画材･用具の支援がなく指導してない」とのことであった。ここまで熱心に絵画指導を継続されてきただけに、非常に残念であった。プノンペン市内 2 校は中華系児童が多く、中華正月により調査ができなかった。教育省の説明とは全く異なる実態があり、改めて途上国や多文化が混じり合う地域での研究･調査の困難さに直面した形である。

4. 公表計画

描画データを分析した後､2018 年 9 月大学美術教育学会にて研究発表し、その後論文にまとめ投稿する。また、この研究は本年度科研費申請が採択され継続して行うものとなった。

---

[1] 日本比較文化学会にて査読審査通過し 2018 年 6 月に学会誌は刊行される予定。